

第81回福島大学経営協議会議事要録

1. 日 時 平成29年3月14日（火）13時30分～16時15分

2. 場 所 福島大学事務局 第2会議室

3. 出席者

【学外委員】阿部正、斎藤美幸、田原博人、富田孝志、早川信夫、林由美子、
深澤秀樹

【学内委員】中井勝己、中田スウラ、三浦浩喜、小沢喜仁、若井祐次、
千葉養伍、久我和巳、阿部高樹、二見亮弘

〔オブザーバー〕 副学長：真田哲也、千葉悦子

監 事：上井喜彦、橋本潤子

4. 欠席者

【学外委員】伊藤泰夫、清水潔、八島洋一、渡邊博美

5. 議 事

【審議事項】

- (1) 役員の報酬について
- (2) 第3期中期目標期間の財政見通しと本学の対応について
- (3) 平成29年度予算配分（案）について
- (4) 平成29年度国立大学法人福島大学年度計画について
- (5) 就業規則の一部改正について

【報告事項】

- (1) 平成29年度一般入試等の確定志願者数について
- (2) 学長の業務執行状況の確認に基づく評価結果について
- (3) その他
 - ・平成29年度経営協議会予定について

議事に先立ち、中井学長から挨拶があった。

【確認事項】

第80回経営協議会議事要録を原案のとおり確認した。

【審議事項】

(1) 役員の報酬について

中井学長から、資料1に基づき、理事（財務・財務戦略・施設・基金担当）の本給月額について、現行の1号給を平成29年4月から2号給へ改定することについて提案があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

(2) 第3期中期目標期間の財政見通しと本学の対応について

中井学長から、冒頭、第3期中の財政見通しを踏まえた食農学類（仮称）設置に係る既存4学類からの学生・教員の拠出について、今年度学内で行ってきた検討内容と経緯の説明があった。その後、若井理事・事務局長から、資料2に基づき、第3期中期目標期間の財政見通しについて説明があり、続いて中田理事・副学長から、財政見通しに基づく今後の本学の対応について提案があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

（以下、◇はその議題に関する学外委員からの質問・意見、◆は大学側の回答等を表す。）

◇他大学では、新学部等を設置する際に既存の課程等を廃止するなどして縮小を図るが、今回は廃止等はせずに全体的に縮小させ、食農学類のために拠出するというのか。また、拠出後の教員数は現在の数と近いと、拠出に伴う学生教育への影響はあまりないということか。

◆食農学類を設置する第3期中は統廃合ではなくスリム化という形で見直しをしたが、第4期へ向けた大胆な見直しの可能性はある。また、法人化以降毎年運営費交付金が削減される中、教員採用についても一部を凍結した上で運営しており、今回既存学類からの教員拠出が学生教育に大きな影響が出るほどの改編にはならないと考えている。しかし、全学の教員数としては、引き続き厳しい状況にあることは変わらず、既存学類には教員数が抑えられたままでの運営をお願いしている。今後、食農学類が設置させることと合わせて、既存学類の見直しを全学で行っていきたい。

◇第3期の財政見通しを見ると、経費を全体的にかなり削減しているようだが、平成29年度はそこまで削減しなくても良くなっているようだ。しかし、平成30年度から大幅な削減を強いられることもあるかと思うので、平成29年度から削減に取り組んだ方が、削減幅が大きくならずに済むのではないか。

◆固定費などの削減が難しい経費については削減対象としていない。また、予

備費を設けており、執行しなかった予備費を翌年度に繰り越すことができるよう努力し、削減幅が年ごとに大きく変わることがないようにしていきたい。

◇食農学類設置により、大学としての幅がより広がると思う。新組織が増えるほど大学として維持していくことは容易ではないだろう。その分、既存の組織を大胆に見直していくことが重要であると思うので、今後取捨選択をしていかなければいけないという印象を持った。

◆組織改組には様々な考え方があると思う。本学としては、今年度から教育担当副学長を主担当として、教育改革に関するWGを設置し、食農学類設置とともに開始する新カリキュラムの検討を行っている。特に共通教育科目の削減案を作成しており、開講数を減らし、教員負担を少なくすることで学内の省力化できるようにしていきたいと考えている。

(3) 平成29年度予算配分(案)について

若井理事・事務局長から、資料3に基づき、平成29年度予算配分(案)について提案があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

(4) 平成29年度国立大学法人福島大学年度計画について

中田理事・副学長から、資料4に基づき、平成29年度国立大学法人福島大学年度計画について提案があった。引き続き、各理事・副学長から、担当の年度計画の内容について説明があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

◇年度計画というよりは長期的な計画になってしまうが、附属学校園について大学での検討がなされていないままなのではないか。組織見直しの方向性を確認する際に、学類教育と附属の学校教育の方向性を合わせ、附属学校園を戦略的に機能させることも検討してほしい。

◆附属学校園の実績も踏まえ、慎重な議論が必要だろう。

◆これまで附属学校園のあり方について大学で検討する仕組みがないことに関して、何らかの対策をしなければいけないとは思っている。あり方を検討する組織作りは少しずつ行っていることから、連携体制について長期的に進めていきたい。

◇他大学の年度計画を見ていても、「～を図る」など、「取り組んでみるが、結果は問わない」という意味が含まれた語尾の使用が多く見られる。ある程度断定的な表現をすることで、大学として明らかにやっていくという意味を示し、特色を出すこともできるのではないか。年度計画を通して、意志の示し方を考えてもいいのではと思う。

◆年度計画の中にも他機関と協力して取り組むものも多く、「図る」といった表現にとどまってしまう難しさもある。

(5) 就業規則の一部改正について

中田理事・副学長から、資料5に基づき、職員給与関係にかかる就業規則の一部改正について提案があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

【報告事項】

(1) 平成29年度一般入試等の確定志願者数について

真田副学長から、資料6に基づき、平成29年度一般入試等の確定志願者数について報告があった。引き続き、中村アドミッションオフィサーから、詳細について報告があり、昨年度から行っている副学長による高校訪問等の取組みもあつてか、県外の志願者数が増加しているが、県内の受験者数は減少しており、県内の高校との高大連携の取組みを進め、受験者数を増やすきっかけとしたいことなどについて説明があった。

◇県内の高校向けにサマースクールなどを開催することが大学の高校へのメッセージとなり、地域との関係作りにもなるため、おすすめしたい。

◆共生システム理工学類では、須賀川の高校へ継続して訪問し、高大連携にもつながる取組みを行っている。このような取組みも踏まえ、サマースクールのような事業にもつなげていきたい。

(2) 学長の業務執行状況の確認に基づく評価結果について

学長選考会議議長である富田委員から、資料7に基づき、学長の業務執行状況の確認に基づく中間評価結果について報告があった。

(3) その他

- ・平成29年度経営協議会予定について
佐藤学長室長から、資料8に基づき、平成29年度の経営協議会の日程等について報告があった。